



Photo:Kiyoshi Nishioka

福祉と伝統のものづくり から考える、 人・もの・地域の新しい関係

たんぽぽの家とGood Job!センター香芝では、伝統工芸と福祉のこれからについて考え、さまざまな人と出会い、実践してきました。今年度は障害のある人、福祉施設職員、職人やデザイナーが互いの施設や工房等を行き来し、技術を交換するレジデンスプログラムや、各地の産地をめぐるスタディツアーなどに取り組みました。今回のトークでは活動を通して見えてきた、これからのものづくりに必要な視点を、ユニークな活動に取り組むゲストを迎え話し合います。

2022年3月20日[日] Vol.01「ものづくりにおける循環、再生」 両日とも14:00 -16:30

3月27日[日] Vol.02「ものづくりを通じた学び」

このトークでは「UDトーク」による情報保障があります。

場所: FabCafe Kyoto (MTRL KYOTO)

〒600-8119 京都府京都市下京区本塩竈町554

会場定員: 15名 / YouTubeによる配信あり(会場参加、オンラインともに要申込)

参加費: 無料 / 会場では1ドリンクオーダーをお願いします。

申込方法: 右記のフォームまたは下記の問合せ先に、件名を「ものづくりトーク参加」とし、参加者名、連絡先をお知らせください。
YouTube視聴の方は後日事務局よりURLをご案内いたします。

問合せ先: 一般財団法人たんぽぽの家 〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4
Tel.0742-43-7055 Fax.0742-49-5501 E-mail nt@popo.or.jp

活動成果の展示会も
同時開催します!

お申し込みフォーム



Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

助成: 日本財団「障害のある人の表現と伝統工芸の発展と仕事づくり」

Vol. 1 「ものづくりにおける循環、再生」

2022.3.20

進行：岡部 太郎(一般財団法人たんぼの家)

環境負荷削減や廃材利用、素材そのものへのアプローチなどは、これからものをつくるうえでかかすことができないテーマです。この回では、MTRL 京都で「新工芸舎展(店)」を開催中の新工芸舎、そしてプレシヤスプラスチックをベースにしたアップサイクリング事業に取り組む松本さん、アートの廃材を価値ある作品にするプロジェクトに取り組む矢津さん、循環経済都市の推進に取り組む神尾さんをゲストにお迎えます。共生/再生の視点を学び、福祉現場においてもものづくりや表現をどう変えていくことができるのかを考え、これから取り組んでいってほしいと思います。

新工芸舎

デザイン/エンジニアリング/ソフトウェア/エレクトロニクスなどの専門分化された分野の再統合を前提に、デジタル・アナログの境界を行き来しつつ表現活動や問題解決を行うことを新しい工芸と定義し、京都を拠点に様々な制作活動をする。特にデジタルファブリケーションを応用した新しい技術/技法の開発に日夜取り組んでいる。

新工芸舎

矢津 吉隆(美術家、kumagusuku 代表)

京都市立芸術大学美術科彫刻専攻卒業。京都芸術大学講師。京都にて美術家の活動と並行してアートスペース「kumagusuku」を開始。2017年からは美術家山田毅とアートの廃材を活用するアートプロジェクト「副産物産店」を開始。主な展覧会に「青森 EARTH 2016 根と路」青森県立美術館(2016)、「やんばるアートフェスティバル」沖縄(2019)など。



松本 恵里佳

東京出身。大学在学中に体験型の環境教育と食育に興味を持ち、卒業後は JICA 青年海外協力隊としてポリビアに派遣され廃棄物課と動物園で活動。帰国後は、フリーランスとして京都に拠点を移し、カメラマンの傍ら新工芸舎にて PRECIOUS PLASTIC をベースとしたアップサイクリング事業に取り組む。



神尾 涼太(Re:public ディレクター)

バセルナ大学大学院修士課程卒業後、カタルーニャ先進建築大学院大学修士課程に入り、都市デザインを学ぶ。専門は、新興テクノロジーを用いた自立分散型都市デザインのプロトタイプングおよびビジョンニング。鹿児島県薩摩川内市のサーキュラー都市拠点・Satsuma Future Commons プロジェクトリーダー。



藤井 克英(Good Job!センター香芝副センター長/企画製造ディレクター)

大学でのプロダクトデザイン専攻の経験をいかし、人となりのあるものづくりをテーマとして仕事に取り組んでいる。商品製造や制作体験プログラムなどの企画開発のほか、デジタル工作技術と障害のある人のすぐれた手仕事や表現を組み合わせたものづくりに携わっている。

小林 大祐(Good Job!センター香芝スタッフ)

大学院で「インクルーシブデザイン」「情報保障」をテーマに人・モノ・自然の共生や協働について研究と実践を行う。2014年からたんぼの家に所属し、障害のある人と協働して新たな仕事をつくる「Good Job! Project」や、福祉とデジタル技術のこれからの関係をつくる「IoTとFabと福祉」を担当。

Vol. 2 「ものづくりを通じた学び」

2022.3.27

進行：森下 静香(Good Job!Center 香芝)

これまで、全国各地を訪問し、伝統工芸と地域、生活の関わりを考えるスタディツアー、ものづくりの現場と交流するレジデンスプログラムを実施してきました。この回では、京都・長岡京にて80年に渡り竹製品の製造販売を行う高野竹工の井澤さん、伝統を継承しつつ独自の視点でものづくりを行う木地師の酒井さん、福祉のものづくりにデジタルを積極的に取り入れたFLAMEの井上さん、地域に密着し遊休資源の利活用と場づくりを行う浅野さんを迎え、福祉×伝統工芸のこれからの考えます。訪問すること、迎えること、そしてともに素材にふれ手を動かすことを共有し、福祉と伝統工芸のこれからの考えます。

酒井 義夫(ろくろ舎代表)

20代に各地を放浪し、2007年に(有)山口工芸(hacoa)入社を機に福井県鯖江市に移住。伝統工芸師山口怜示氏に師事。フランスパン職人を経て伝統工芸師清水正義氏に師事。2014年ろくろ舎を立ち上げる。伝統的な丸物木地師としての技術を継承しながら、「価値の再定義」をコンセプトに、木材を中心に素材・製法にこだわることなくプロダクトを製作。



井澤 葉子(高野竹工)

英国ロイヤルカレッジオブアートでジュエリーを学び英国を拠点にジュエリー作家として活動のち帰国。素材とモノづくりの在り方に疑問を感じていた時に高野竹工と出会い、地元の竹の整備を始め手間暇かけて材料とする姿勢や役目を終えた古材を使ったモノづくりに感銘を受け2019年より高野竹工の仕事の発信に従事する。



井上 愛(NPO法人 motif 理事長)

趣味だった手織りの教室を3年間自営し、2008年 NPO 法人を同僚と設立する。2020年にNPO法人 motif を設立し、翌年、FLAME(障害者福祉事業所)を西春日井郡豊山町に開所。地域の素材や技術を取り入れ、伝統産業と障害のある人の手仕事の可能性や、デジタル刺繍機によって生まれる地域の場づくりに挑戦中。



浅野 翔(ありまつ中心家守会社)

2014年に名古屋を拠点にデザインリサーチャーとして活動を始め、2019年よりありまつ中心家守会社を共同として立ち上げる。「デザインリサーチによる社会包摂の実現」を理念に掲げ、調査設計、ブランド・商品開発、経営戦略の立案まで、幅広いジャンルで一貫したデザイン活動をおこなっている。



写真：衣笠 名津美

EVENT

文化庁とたんぼの家が主催する関連イベント

ニュートラ談義 online 各回とも YouTube にてライブ配信 無料・要申込

① 3月6日(日) 14:00→16:30 / ② 3月11日(金) 18:00→20:00

① 「福祉施設の現場をいかす、価値のあるものづくり」

登壇者：高野賢二(クラフト工房 La Mano)、前川亜希子/前川雄一(HUMORABO)、武田和恵(やまがたアートサポートセンターら・ら)、軸原ヨウスケ(ドンク 玩具社)、安部剛、松本綾(共に GoodJob!センター香芝)

② 「『わたしのニュートラ』から、ものづくりを考える」

登壇者：吉田勝信(吉勝制作所)、高橋孝治(デザイナー)、桜庭幸恵(ワークセンター かじま)、川崎富美(デザイナー)、伊奈真弓(アートスペースからふる)、原田祐馬(UMA/design farm)

3.6 & 3.11の「ニュートラ談義」お申し込みフォーム



令和3年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)」

EXHIBITION



展覧会も同時開催！トークと合わせて、本事業で取り組んだレジデンスの成果を展示します。木工/竹工芸/デジタル工作などのものづくりと、福祉と伝統工芸のコラボ事例も紹介します。会場・会期はトークと同じです。